

普及センターだより

常陸太田地域農業改良普及センター

〒313-0013 常陸太田市山下町4119 TEL 0294-80-3340~2 FAX 0294-80-3348
高萩駐在 TEL 0293-22-3061 FAX 0293-24-0210

第 **66** 号



ブドウの安定生産をめざして 整枝・剪定研修会を開催

令和三年二月一五日、日立市を会場に、令和三年度茨城県ぶどう連合会冬期研修会が開催され、県内のブドウ生産者等一二五名が参加しました。

研修会は、J A常陸折笠ブドウ部会員の二ほ場で、園芸研究所の研究者や専門技術指導員が講師となり、今年の気象状況やブドウの基本的な整枝・剪定方法についての説明後、整枝・剪定の実演を行いました。

短梢せん定の「シャインマスカット」において、芽座が欠損した際の対処や、芽座を基部に維持する方法について実演しました。

この際、薬剤・植調剤の塗布・散布や灌水方法について、活発な質疑応答がありました。

さらに、参加者同士の情報交換が積極的に行われるなど、ブドウの安定生産のための充実した研修会となりました。

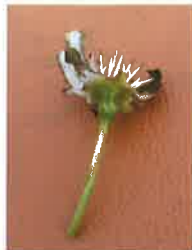
果樹の晩霜害対策

近年、地球温暖化等の影響により、果樹類の開花および生育が早まっている傾向です。開花が早ければ早いほど霜害に遭遇する期間が長くなるので、十分に備えておく必要があります。自分の果樹園と気象情報の最低気温がどのくらい違うか日頃から観察しておく、翌朝の最低気温が何度になるか予想できま

す。霜害対策には、多目的防災網の展張や燃焼法などの方法があります。燃焼法を実施する場合は、事前に燃焼資材や点火用具を準備し、ほ場に温度計を設置します。燃焼法の点火時刻は危険温度以下に冷え込まないように、



低温によるナシの着果不良



ナシのひぶくれ症

二ホンナシの場合には気温が○度近くになったら点火しましょう。



冬季から春季にかけての果樹病害虫対策

黒星病等、多くの病原菌が落葉で越冬するので、落葉を集めて土中に埋めたり、粉碎して土中にすき込むなど適切に処理しましょう。

表 落葉処理方法

種類	方法
粉碎処理	草刈機で落葉を粉碎する。2回以上実施すると効果が高い。
中耕すき込み処理	ロータリーで落葉をすき込む。低速ギアで1回実施する
粉碎+中耕すき込み処理	草刈機で落葉を粉碎後、ロータリーですき込む。1回実施する。
収集持ち出し処理	ブローアなどで集め残しがないよう丁寧に収集する。

●粗皮剥ぎ、粗皮削り

樹皮の表面を鎌などで削り取って滑らかにすることで、ハダニ類やカイガラムシ類の越冬場所をなくします。また、ブドウやカキでは、コナカイガラムシ類対策として、粗皮を剥いだ主幹への薬剤塗布も有効です。

●薬剤防除

初期密度を低下させるため、休眠期に、越冬中の病害虫へ防除効果のある薬剤を散布します。また、春先はナシ黒星病の重点防除時期です。催芽く萌芽期の防除を確実にいきましょう。

サツマイモ基腐(もとぐされ)病の防除対策(育苗期、植付期)

糸状菌(カビ)により引き起こされ、保菌した苗・イモ・残さ(畑に残った葉や茎、イモ)等が伝染源となります。見かけ上は健全な苗やイモでも保菌している可能性がありますので、注意が必要です。

●切苗購入時の注意点

来歴が不明な苗は絶対に使用しないでください。

購入の際、基腐病対策が徹底されていることを販売店に確認し、未消毒の場合には購入後に必ず「苗消毒」してください。

●種イモから苗を増殖する場合の注意点

病害の発生してないほ場で生産されたイモを選別して用いてください。伏せ込む前の種イモには、黒斑病対策の消毒をしてください。

採苗時のハサミはこまめに消毒し、地際から5cm以上の位置で切つ

表 サツマイモ基腐病の「苗消毒」方法(登録内容は令和4年2月9日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	注意点
ベンレート水和剤	500~1000倍	30分間苗基部浸漬	植付前	1回	使用当日に調製すること

てください。採苗した苗は、速やかに「苗消毒」をしてください。

野菜の晩霜対策

四〜五月は寒暖の差が大きく、晩霜のおそれがあります。翌朝の最低気温が3℃以下になると予想される時は特に注意し、トンネル栽培では、トンネル内のべたがけ被覆や夕方早めの密閉を行い、露地栽培の場合は、不織布や寒冷紗などで被覆します。

凍霜害が発生しやすい気象条件

①降雨後に肌寒い北寄りの風が吹く。②夕方になり晴れ上がり、雲がなく、星が輝き、底冷えがする。特に乾燥条件下では、気温が急激に低下しやすい。

被害を受けた場合、病害の発生が懸念されるので、損傷部の除去や薬剤散布などの防除対策を行うとともに、草勢回復のため、薄い液肥を散布します。また、カボチャ(トンネル栽培)の場合、凍霜害を受けた日の日中は強日射を避けるよう遮光します。



カボチャの霜害

水稲の育苗管理

水稲は、昔から苗半作と言われています。苗づくりは稲づくりにおいて最も重要な期間です。健全な苗を育成し、美味しい米づくりを目指しましょう。

温度管理

育苗中の温度管理は、健苗育成において最も重要です。極端な高温や低温は、生理障害や苗立枯病を引き起こします。そのため、必ず育苗機及びハウス内に温度計を設置し、生育ステージに応じた温度管理を徹底しましょう。

特に近年は、高温の日が多く見られます。天気予報を確認

表 育苗中の温度管理の目安(℃)

	昼	夜
出芽期 約2日	28~30	
緑化期 2~3日	20~25	15~20
硬化期 10~14日	20~25	10~15



苗立枯病(リゾーブス菌)
高温条件(30℃以上)で多発

水管理

し、晴天時は、早めのハウス開放を心掛けましょう。

不適切な水管理は、苗を徒長させ、その後の病気や倒伏の原因となります。適切な水管理を心掛けましょう。

緑化期に土が乾いている時は、午前中に灌水します。硬化期は一日一回午前中に灌水し、午後の灌水はできる限り控えましょう。

また、プール育苗の場合は、硬化期から床土の上まで入水します。プール育苗は水の保温効果により徒長しやすいため、降霜が予想される時以外は昼夜共にハウスの両脇を開放状態にして管理します。

八月咲きコギクの開花抑制

夏咲きコギクは、定植後の五〜七月の気温が高いと開花が進むので、開花を抑制するため、植物成長調整剤を効果的に使しましょう。

●エスレル10の処理

- ①摘芯時または定植後一週間以内に、「エスレル10」の五〇〇倍液を株全体がぬれるように散布します(展着剤は入れない)。
- ②その後、一〇〜一四日ごとに散布するが使用回数は三回以内です。
- ③ほ場が乾いた晴天日の昼間に散布すると高い効果が得られます。散布は五月二五日頃までには終えましょう。

散布により三日〜七日程度、開花を抑制しますが、品種や気象条件により効果に差があるので、半分は一回散布、残りは二回散布するなどすると良いでしょう。(登録内容は令和四年二月九日現在のものです)

食品衛生法の改正

平成三〇年六月一三日に食品衛生法が改正され、次の三点は

令和三年六月一日に経過措置期間が終了し、完全施行となりました。

①HACCP(ハザップ)に沿った衛生管理の制度化

今回の法改正により、原則としてすべての食品事業者に一般衛生管理に加え「HACCPに沿った衛生管理」の実施が求められます。厚生労働省のホームページに手引書が公表されていますので、参考にしてください。

②営業許可制度の見直しと届出制度の創設

食中毒等のリスクや食品産業の実態を踏まえ、食品営業許可業種は三二業種に再編されました。また、温度管理等が必要な包装食品の販売業、冷凍冷蔵倉庫業等は届出が必要になります。オンラインでの申請も可能です。

③食品等のリコール情報の報告を義務化

営業者が食品等の自主回収(リコール)を行う場合に、自治体を通じて国へ報告する仕組みを作り、リコール情報の報告が義務化されました。営業者は、回収に着手した旨、回収の状況を所管の自治体に届け出なければなりません。届出された情報は一覧化してホームページ等で公表されます。

櫻村智生さんがプロジェクト発表会で優秀賞を受賞

令和四年一月二十八日、茨城県農業青年プロジェクト実績発表会がオンラインで開催され、県内の若手農業者が、各々の経営や地域の課題解決に向けた取組を発表しました。

当普及センター管内からは、日立市の櫻村智生さんが「カッコいい農家を目指して～Re・Agriの歩み～」と題し、櫻村さんが代表を務める県北地域の有機生産者組織「Re・Agri」の活動を発表しました。

Re・Agriは、勉強会や視察研修等によるスキルアップに加え、ドライブスルー形式で野菜ボックスを販売するドライブスルーマルシェを行っています。



オンライン発表の様子

発表では、コロナ禍のなか、活動に取り組んだ経緯や、SNSを活用した宣伝方法の工夫等について説明しました。審査の結果

果、櫻村さんは優秀賞(農林水産部長賞)および若竹賞(農業大学校自治会長賞)を受賞しました。

今後、八月に開催される関東ブロック農村青少年クラブプロジェクト実績発表会に茨城県代表として出場する予定です。

「全国担い手育成総合支援協議会会長賞」受賞

常陸太田市の小川剛さんが、令和三年度全国優良経営体表彰の経営改善部門で全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞しました。

小川さんは、平成二十九年から、輸出入の栽培に取り組み、ほ場巡回や検討会を開催し、他の輸出入生産者と共に栽培管理技術の向上を図ってきました。また、特別栽培米や飼料用米にも積極的に取り組み、地域全体の稲作振興に大きく貢献しています。

これらの実績が認められ表彰されました。益々のご活躍を心よりお祈りいたします。



表彰状の写し

「全国果樹研究連合会会長賞」受賞

日立市のブドウ生産者高橋幸大さん・枝美さん夫妻が、第23回全国果樹技術・経営コンクールに出品し、「全国果樹研究連合会会長賞」を受賞しました。

高橋さんは、植物成長調整剤を活用した作業の分散や省力化、旬の品種を効率良く消費者に提供するセット販売等、生産と販売の両面で工夫を凝らした経営に取り組み、高く評価されました。

顧客ニーズに合った品種を高品質で生産する若手生産者として、高橋さん夫妻の益々のご活躍が期待されます。



表彰状の写し

女性農業者交流会を開催



令和3年12月6日、常陸太田市の木の里農園にて、女性農業者の交流会を開催し、管内女性農業者7名が参加しました。

交流会ではわら細工に取り組み、講師の指導の下、「銅敷き」を製作しました。わらを叩く作業や編み込む工程に苦戦しながらも製作中は、日頃の農作業や生活について終始会話が弾み、充実した交流会となりました。

今後も、普及センターでは個別巡回や交流会の開催等を通して、女性農業者の意見集約や農業に関する情報提供等による支援を行っていきます。